

文字摺通信

第 86 号

2025年 4月15日

発行:文字摺歴史文化社

白河鹿嶋神社に行ってきました。見どころ盛りたくさん！

中山鳥居・居並ぶ狛犬・神仏混淆

2月25日、白河の鹿嶋神社へ行ってきました。阿武隈川を神輿が渡御する提灯祭（正式名称は「鹿嶋神社例祭渡御祭」）で有名な神社です。初めての訪問でしたが、見どころ満載・盛りだくさんの神社です。

まず参道の入口の鳥居にびっくり。ちょっと見ると島木の上に笠木があり、柱が末広がりになっており、右側の明神系に似ていますが、

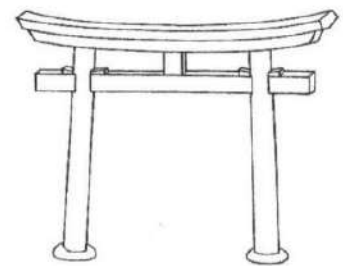
額の下にある貫（ぬき）が柱の両側に突き抜けていません。貫が突き抜けない鳥居は神明系の鳥居です。鹿嶋神社の鳥居は、明神系と神明系のミックス型で、中山鳥居といいます。私はあちこちの神社の鳥居をずいぶん見っていますが、中山鳥居は初めて見るものでした。福島県内にもあるんだ！と、まず、鳥居に驚きました。

参道を歩くと隨身門がありました。神社の守護神である矢大臣（矢を背負う武人）が門の左右に持しています。この隨身門をくぐって、ひょいと振り向くと、隨身門は仁王門に早変わり、なんと両側に持し

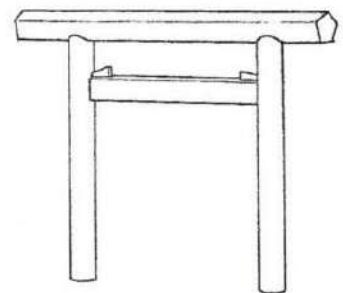
ているのは、筋骨隆々の金剛力士像ではありませんか。

鹿嶋神社はいまだに神仏混淆の往時の姿をしているのです。境内配置図をみると、観音堂が残っているのです。

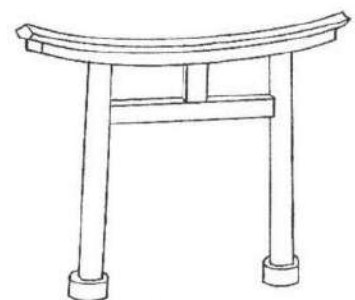
宮司の和知延（わち・ひさし）さんにお訊ねしましたところ、同社は明治43年に火災にあって全焼し、大正元年に再建したのですが、その時、とにかくこれまでと同じ



明神鳥居



神明鳥居



中山鳥居

